

点検・評価シート（2）

健康都市やまとMANAB I 計画

（大和市生涯学習推進計画）

（教育委員会所管分）

◆ 評価の基準について ◆

○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。



○個別目標の「達成度」

A評価	個別目標の進捗状況が、令和4年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和4年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和4年度に期待された結果を下回っている。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の学びを推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・人口減少社会の到来、人生100年とも言われる長寿社会の到来という新たな時代の中で、生涯学習においても、社会状況の変化に対応していく必要があります。
- ・特に、退職後、地域とのつながりが少ない方や同居家族のいない方などの「おひとり様」を対象に、学習機会や「居場所」の提供などを進め、これらの人たちが充実した毎日を過ごせるよう支援していく必要があります。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

【めざす姿】

市民の学びに関わる機会が増えている。

【施策の内容】

- ① 「健康都市大学」を開講します。
 - ・「大和市民大学」を大幅にリニューアルし、市や関係団体等が実施する学習機会を、共通の仕組みで一つにつなぐ「健康都市大学」を開講します。
 - ・そこでは、市民が講師となり市民に教授する講座等を充実させるなど、学びを通じた、市民の居場所づくり、交流の場づくりを目指します。
- ② 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
 - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センターなどを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- ③ 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
 - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
 - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースをはじめとした、誰もが自由に利用できるスペースを提供します。
- ④ 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
 - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を市民の「居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

個別目標1-(1)を達成するための主な取組

1 健康都市大学の開講（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】①健康都市大学を開講します。
②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

- 健康都市大学は、市民自身が持つスキルや知識、経験を基に、市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」、市や外郭団体などが市民向けに実施している講座から成る「人の健康学部」と「まちと社会の健康学部」の3つの学部で構成しています。
- 健康都市大学の特徴的な学部である「市民でつくる健康学部」では、いつでも誰でも気軽に参加できる市民講師の講座を開催しています。
- 「市民でつくる健康学部」は、定員の制限を設けるなどの新型コロナウイルスの感染対策を実施しながらの開催となりましたが、2022年度は延べ6,503人の方に参加をいただきました。
- 活動指標と成果指標の数値を用いて1回あたりの受講者数を比較してみても2021年度は26.6人、2022年度は27.5人と増加しており、コロナ禍にあっても、市民の学びの意欲にこたえたとともに、居場所としての役割を果たすことができたと考えます。
- 「人の健康学部」や「まちと社会の健康学部」を構成する市や外郭団体等が実施する講座などをまとめた「健康都市大学ガイドブック」を発行し、学びの情報の一元化と、分かりやすい情報提供に努めました。
- 2022年度の開講数は、より多くの市民に「居場所」を提供するため、講座開催日の一部を健康都市大学主催のイベントに変えたことなどから、前年度より微減し236回の開催となりました。



健康都市大学 「市民でつくる健康学部」

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	※2 2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学の開講数	回	—	309	96	251	236	363	

※1 計画策定時（2017年）は、健康都市大学は事業創設前のため実績なし。

※2 健康都市大学は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い2020年2月22日(土)～8月31日(月)及び2021年1月10日(日)～3月21日(日)まで休講。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学の受講者数	人	—	9,535	2,419	6,686	6,503	2,600	

今後の課題

- 多くの市民が学ぶ楽しさを実感できるよう、定員数の見直しや、より気軽に参加できる方法について検討していく必要があります。
- より効率的に多くの市民に学びの場を提供するため、制度そのもののあり方などを含め検討していく必要があります。

2 学習センターにおける学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
③誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。

- ・文化創造拠点シリウス2階の市民交流ラウンジ（有料）を個人の勉強や読書、リモートワークの場として提供したほか、シリウス・ポラリスでは予約せずに誰もが利用できる市民交流スペース、各学習センターでは当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用する学習室開放を行いました。
- ・2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館期間や開館時間の短縮が無かったことから、1年を通して学生をはじめとする多くの方に学習の場及び居場所を提供できました。
- ・成果指標である市民一人当たりの学習センター来館回数については、ソーシャルディスタンスを確保するための座席制限はあったものの、開館時間の短縮などはなく、コロナ禍以前の水準に戻り切ってはいませんが、増加を続けており、最終目標値の達成に向けて順調に推移していると考えられます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023	
○学習センターの 開館日数	日	生涯 363	332	272	359	359		364
		ポラリスー	328	277	359	359		360
		つきみ野 308	326	267	270	※4 0		358
		桜丘 131	326	267	357	357		358
		渋谷 346	317	258	346	346		347

- ※1 計画策定時（2017年）、ポラリスは開館前のため実績なし。地区館は直営のため月曜休館。また、桜丘学習センターは改修工事のため2017年9月～2018年3月まで休館。
- ※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。
- ※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。
- ※4 つきみ野学習センターは、2021年12月29日(水)～2023年4月9日(日)まで大規模改修工事のため休館。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	4.74	8.64	2.28	5.72	5.96		6.42

今後の課題

- ・市民交流スペースなど、対面接触の防止や食事制限などのために、コロナ禍においては積極的に活用できていなかった空間を、より多くの方が利用できるよう、今一度、座席数の増加なども含め、有効的な活用方法について検討していきたいと考えます。
- ・引き続き、感染状況を注視して、利用者の皆様の理解を得ながら、団体やサークルにとって安心して活動できる環境を整える必要があります。

3 図書館における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

④気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。

- ・文化創造拠点シリウスを中心とした3つの図書館において、それぞれの地域の特性に合わせた施設運営を行っています。
- ・中でも大和市立図書館は、文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い987席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができる居心地のよい空間づくりに努めました。
- ・2022年度は、感染防止対策を徹底しながら、市民の学習の場、居場所を提供しました。
- ・成果指標である、図書館の来館者数は、文化創造拠点シリウスが約260万人、中央林間図書館が約68万人、渋谷図書館が約15万人で、合計約343万人となっており、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあります。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023	
○図書館の開館日数	日	本館 363	332	272	363	363		363
		中央林間一	332	277	363	363		363
		渋谷 308	317	287	346	346		346

※1 計画策定時（2017年）は中央林間図書館は開館前のため実績なし。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の来館者数	人	3,053,751	4,002,361	1,922,640	3,010,193	3,429,076		4,177,000

今後の課題

- ・2021年度からは、全館一括での指定管理者による運営体制が整ったことから、それぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するだけでなく、各図書館が連携し、横断的な図書館サービスを展開するための管理運営のあり方を検討する必要があります。
- ・休日の閲覧席の不足等の課題を解決し、適切なサービスが提供できるよう指定管理者と都度協議していく必要があります。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度]

B

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化や情報化の進展など、今日の社会状況は目まぐるしく変化しています。
- ・このような社会を生き抜き、充実した生涯を送ることができるよう、一人ひとりの生涯各期に合わせた学習機会の提供が必要です。

【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
 - ・乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供し、家庭教育支援を推進します。
 - ・保護者同士の交流の場や学習の場を設けて、乳幼児と保護者がともに学び、成長できるような機会を提供します。
 - ・様々な読書活動を通じて乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- ② 青少年期に対応する学習機会を提供します。
 - ・「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
 - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- ③ 成人期に対応する学習機会を提供します。
 - ・家庭、地域、職場での生活を豊かにするため、趣味や教養、就労などに関する学習機会を提供します。
 - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- ④ 高齢期に対応する学習機会を提供します。
 - ・高齢化に伴う新たなライフスタイルに対応した、趣味や教養、健康に関する学習機会を提供します。
 - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。

個別目標1ー(2)を達成するための主な取組

1 乳幼児期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①乳幼児期に対応する学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、乳幼児期における問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を市や地域、学習団体と連携して提供し、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・2022年度は、生涯学習センターで開催した「子育て応援！オンライン講座」など、オンライン形式での講座を実施するとともに、各種制限が徐々に緩和され始めた状況に鑑み、新型コロナウイルス感染防止策を講じつつ、対面での講座も開催しました。
- ・ポラリスで開催した「自然ふれあいあそび～ふしぎなものに目をみはり豊かな感性を育む～」では、親子でできる自然あそびの紹介や実践を通して、子どもの生き生きとした発達を促しました。
- ・屋内での講義のみならず、講座の後半では施設に隣接している星の子ひろばに出て、野外での工作などに取り組みました。祝日の開催であったため、父親の参加も多く見られ、子どもが身近な自然を楽しむことは勿論、親にとっても有意義な育児参加の場となりました。
- ・「子どもでも簡単に参加および製作できる内容でとても良かったです。自己紹介も子どもの発達のための場となり、良い経験になったと思います」、「日々の生活でも工夫して脳を刺激できたらいいなと思いました」など、アンケートに寄せられた受講者の声からは、講座冒頭に行われた参加者同士の自己紹介から、子どもの成長の様子を実感する声や、今後の暮らしに学んだことを活かしていこうとする姿勢が伺えました。
- ・図書館では、本市の子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書よむ読むプラン」に基づき子どもの読書活動推進のための様々な取組を進め、そのなかで乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会（親子のおはなし会、赤ちゃんおはなし会）を開催しました。
- ・また、市の母子保健を担当する部署と連携し、全ての子どもに人生最初の本との出会いを作るためのブックスタート事業を4か月健診時に実施し、2022年度においては1,866組の親子に絵本を届けました。2022年度10月からは、ブックスタート事業のフォローアップとして、3歳6か月健診児を対象にセカンドブック事業を開始し、親子への絵本プレゼントを419件実施しました。
- ・成果指標である、おはなし会の延べ参加者数は増加を続けており、新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準へと戻つつあります。乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数については、大規模改修工事を実施していたため、つきみ野学習センターが保育室開放を行わず、前年度と比べて低下する結果となりました。



自然ふれあいあそび



クリスマスとくべつおはなし会

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	46	35	23	21	15		40
○おはなし会の開催回数	回	282	270	130	173	238		282

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数	人	6,927	10,818	1,934	3,746	2,470		7,646
○図書館や保育園などのおはなし会の延べ参加者数	人	3,103	5,330	1,739	2,979	3,454		3,420

今後の課題

- ・今後、コロナ禍以前の日常に徐々に回帰していくことが予想されますが、遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのない、オンラインだからこそ開催可能で、受講者にとって利点のある講座については、今後も対面での講座と並行して実施できたらと考えます。
- ・ただし、オンライン講座には、自宅で受講できるという安心感や、小さな子どもがいても参加できるというメリットがある一方で、子どもが集中して参加してくれないという理由から、対面形式を望む方々もいるため、対面講座の内容をそのままオンラインで提供するのではなく、オンラインだからこそ開催可能な内容を検討する必要があります。
- ・対面形式の講座については、現地に行き生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていかなければならないと考えます。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため、ブックスタートの会場等で読み聞かせができない状況が続き、保護者や子どもが絵本と出会う機会が減ってしまったため、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻していくための取組の検討が必要です。

2 青少年期対応講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課、こども・青少年課）

【関連する施策の内容】②青少年期に対応する学習機会を提供します。

- ・青少年期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・学習センターでは、青少年期の子どもを持つ保護者のための児童家庭教育学級（セミナー）を実施したほか、青少年期の児童・生徒を対象に、体験型の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催した児童家庭教育学級では、「個性をつぶさない子育て～知って みとめて 向きあおう」と題した講座を開催しました。この講座は、子どもの個性を発見して育てることを学ぶことで、他者の個性を認める社会づくりの一助とすることを目的とした講座であり、前年度の児童家庭教育講座の参加者から募った講座企画委員の方々が企画した市民企画講座です。本講座の開催背景には、前年度の講座受講者たちの、自ら企画を行うことで現役子育て世代の悩みに合った講座を作りたい、という意欲がありました。
- ・企画立案、講師選定、広報制作、周知と集客、および当日の運営について、かつての学習者が自ら担当を務めることで、自分の得た学びを地域に広げていくことができました。また、企画立案や当日の講座運営などを通して、学びを地域に広げて他者に伝えるのみならず、子どもとの接し方や子育てをめぐる考え方について新たな視座を得て、自らの学習を深める結果にも繋がられました。



児童家庭教育学級
個性をつぶさない子育て

- ・講座受講者からのアンケートでは、「子どもを変えようというのではなく、私自身が変わらなければいけないことを感じました」、「夫婦で参加できたことで少し関係性が変わりました」、「今日の家族、夫婦のかたちを変えるという考え方、すごくおもしろく、そうなれるように夫と話し合っ進んでいこうと思います」などの声があり、子どもとの接し方から自分を省みるとともに、自分自身の問題に限らず、パートナーとの関係あるいは家族のあり方を見つめ直し、今後の行動を変容させようという意志が見られました。
- ・つきみ野学習センターで企画及び実施した「こどもボードゲームクラブ」は、改修工事中であったため、シリウス6階の生涯学習センターを会場として開催しました。
- ・ボードゲームを媒介に、子ども同士のコミュニケーションを促し、地域交流と子どもの居場所づくりを意図する事業であり、対象年齢は小学2年生から中学生までと定めましたが、対象外の大人にはボランティアとしての参加を呼びかけたため、子ども同士のコミュニケーションのほか、子どもと大人の間で世代の垣根を越えた交流も見られました。
- ・参加した子どもたちは、通っている学校も年齢も性別も異なりますが、同じボードゲームに取り組むことで打ち解けていき、遊びのなかで自然と役割を引き受け、チームとして協力し、他者とのコミュニケーション能力やルールの理解力などを含む社会性を養うことができました。
- ・ボランティアとして参加した大人は子どもの声に耳を傾け、子ども同士の意思疎通を促すとともに、自身も積極的に子どもと言葉を交わすことにより、地域における世代間対話を実現していました。
- ・図書館では、図書館見学や図書館員の仕事を体験する一日図書館員などの事業を実施し、図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行うことができました。
- ・2022年度のユースクラブは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動内容や時間の変更をしながら各定例会を実施しました。青少年が企画から運営まで体験できる機会として、県内の野外活動センターにおける野外炊事やレクリエーション研修、また、市内施設を活用した工作体験や調理実習などを提供することで、自主性や主体性を育み、さらにはグループでの活動を通して協調性や社会性を身に付けさせる取り組みを行いました。
- ・こども体験事業は、参加者の募集人数の削減、感染防止策が行える宿泊施設の利用等を行うなど、新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施しながら事業を実施しました。参加者の子どもたちは、陸前高田市内の震災遺構見学や現地の人々との触れ合いを通して、自然災害の恐ろしさを学ぶと共に、人々の温かさと生きることの意味について考えるきっかけを得ることができました。
- ・成果指標である、青少年期対応講座等の延べ参加者数と、ユースクラブの活動日数は、前年度より増加しており、コロナ禍前である2019年度の水準へと徐々に戻りつつあります。



シリウスこどもボードゲームクラブ

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	28	21	10	13	11		28
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	26	22	11	17	27		27
●こども体験事業の活動報告パネルの展示日数	日	151	288	0	0	84		151

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,330	1,070	342	416	592		1,466
●ユースクラブの活動日数	日	90	79	22	39	70		92
●こども体験事業参加者数	人	29	25	0	0	17		30

担当: ○図書・学び交流課、●こども・青少年課

今後の課題

- ・今後、コロナ禍以前の日常に徐々に回帰していくことが予想されますが、遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのない、オンラインだからこそ開催可能で、受講者にとって利点のある講座については、今後も対面での講座と並行して実施できたと考えます。
- ・対面形式の講座については、現地に行き身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていかなければならないと考えます。
- ・新型コロナウイルスの影響により、長期間にわたり活動が中止・縮小されていたことを受け、事業を行う団体から離れていった会員数を新たに確保していく必要があります。

3 成人期対応講座等の開催 (市長部局所管 担当: 図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】③成人期に対応する学習機会を提供します。

- ・家庭・地域・職場で活用できる、自己啓発・能力開発等の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで実施した「プロのガイドから教わる、ゆる登山入門」では、全3回に亘る講座を実施しました。
- ・本講座はコロナ禍後に再び盛んになることが予想される登山について、事故を避けて安全に楽しむ方法を学ぶことを目的として開催されました。
- ・受講者からは「登山の経験はないのですが、ハイキングに行きたくなりました」、「すでに2年前くらいから近くの山に登り始めたのですが、こういった講座を受けていなかったのが、花や木、鳥などの観察の楽しさを教えてもらいました」などといった声が寄せられ、登山未経験の方に入門を促すのみならず、すでに趣味として楽しんでいる方の知識を深めることにもなりました。
- ・講座終了後、受講者同士で登山グループが形成される様子も見受けられ、学習による人の交流が生まれ、以後の継続的な学習へと繋がっていく様子を確認できました。
- ・成果指標である成人期対応講座等の延べ参加者数は増加し続けており、コロナ禍以前の実績へと概ね回復しております。



成人期対応講座
「プロのガイドから教わる、ゆる登山入門」

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	16	12	6	7	10		15

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	613	594	245	325	587		674

今後の課題

- ・今後、コロナ禍以前の日常に徐々に回帰していくことが予想されますが、遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのない、オンラインだからこそ開催可能で、受講者にとって利点のある講座については、今後も対面での講座と並行して実施できたらと考えます。
- ・ただし、オンライン講座には、デジタルデバイドをめぐる問題も付随するため、引き続き、各地区の学習センターにサテライト会場を用意するなどして、パソコンやタブレットといったデバイスを所有していない方にも配慮した実施方法を検討する必要があります。
- ・対面形式の講座については、現地に行き身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていかなければならないと考えます。

4 高齢期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】④高齢期に対応する学習機会を提供します。

- ・高齢期においても元気に、生きがいづくりや健康づくりに取り組むための講座を実施しました。
- ・講義と苗植えの実践によって個人の学びを深めるとともに、園芸という共同作業を通して、学習者相互のコミュニケーションを実現させることを目的に、生涯学習センターで「いきいき園芸ライフ～癒しのガーデニング講座～」という講座を開催しました。
- ・受講後のアンケートでは、「ローズマリーのハーブを今後生活に取り入れてみたいと思いました」、「ハーブについても調べてみたいと思いました」、「ハーブは初めて育てるのですが、料理に取り入れたいと思います。いただいたローズマリーでお肉を焼いてみようと思います」といった声が見られ、本講座で学習した事柄を今後の暮らしのなかに活かしていこうとする意欲、行動変容の兆しが表れておりました。
- ・成果指標である、高齢期対応講座等の延べ参加者数は、2021年度、2020年度と比べ、大きく増加する結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	10	11	10	8	8		11

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	693	1,069	479	371	545		762

今後の課題

- ・今後、コロナ禍以前の日常に徐々に回帰していくことが予想されますが、遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのない、オンラインだからこそ開催可能で、受講者にとって利点のある講座については、今後も対面での講座と並行して実施できたらと考えます。
- ・ただし、オンライン講座には、デジタルデバイドをめぐる問題も付随するため、引き続き、各地区の学習センターにサテライト会場を用意するなどして、パソコンやタブレットといったデバイスを所有していない方にも配慮した実施方法を検討する必要があります。
- ・対面形式の講座については、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていかなければならないと考えます。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。
- ・急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

【めざす姿】

自らの興味や社会状況に合った学習をすることにより、
心や生活が充実した市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
 - ・市民の学習ニーズを的確に把握し、それに対応した学習機会を提供します。
 - ・受講者アンケートなどにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
 - ・指定管理者のもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- ② 社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。
 - ・地球環境の保全、国際理解、男女共同参画社会の実現、情報化社会への対応など、市民が社会生活を営む上で理解し、身につけておくことが望まれる課題についての学習機会を提供します。

個別目標1—(3)を達成するための主な取組

1 受講者アンケートの実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民ニーズに応える学習機会を提供します。

- ・学習センターで実施した各講座においては、オンライン講座を含め、講座終了後にアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測りました。
- ・毎年、各学習センターでは、様々なジャンルの講座を開催していますが、成果指標であるアンケートによる参加者の満足度については、最終目標値を下回る数値となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケート調査の実施回数	回	204	160	110	117	120		150

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる参加者の満足度	%	94	98	98	98	92		94

今後の課題

- ・例年と比較して、アンケートによる参加者の満足度が低下したことを受け、満足度の高い講座とそうでない講座を精査し、内容面でのいっそうの充実を目指したいと考えます。また、講座に関するアンケート調査のほかにも、いかなる分野の学びに興味を持っているか、関連する分野において次はどういった講座を受けてみたいかなど、多様な市民ニーズを把握し、高水準の満足度を得られる事業展開を図る必要があります。

2 現代的課題対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。

- ・多文化共生や防災、環境など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- ・渋谷学習センターで開催された「演劇ワークショップ」という講座には、小学校3年生から80歳までの参加者が集まりました。
- ・講座の開催目的は、ともに演技を学ぶことで世代間の交流を深めることにあり、参加者はシアターゲームや身体表現を通して相互に意思疎通を図り、他者との信頼関係を築き上げることを体験できました。
- ・アンケートには「幅広い年代と上下関係なく、体を動かしたり声を出したりと、楽しかったです」、「親子で参加できたことがよかったです。初対面の人と二日間でこんなに仲良くなれる体験はなかなかないのでよかったです」など、参加者間のコミュニケーションの深まりを喜ぶ声が多く見られました。
- ・加えて「楽しみながら自分を相手に伝えること、相手が伝えようとしていることを受けとることを完全にはできませんでしたが、舞台ではこういうことをやっているのだなと体験できたことがよかったです」、「自分からは出てこない表現方法を他の人がやってくれて、びっくりしたり感心したり、発見がたくさんでした」、「あるいは「普段の自分とは少し違う一面を自分で発見できたように思います」など、演技を披露し合うことで、自分と他者の相違に目を向けたり、他者との交流のなかに新しい自分を見つけたりと、自分とは異なる人々とのコミュニケーションの楽しさを実感する声も寄せられました。
- ・また、本講座は、大和市在住の若手俳優をバックアップし、講師として教える機会・経験を提供する場でもあります。学ぶ側のみならず、教える側も講座経験を積むことで、自らの学びを深めることができました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	39	29	18	28	24		38

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,615	1,992	646	2,008	1,700		1,780

今後の課題

- ・コロナ禍から日常への回帰が見られますが、オンライン講座の実施によって得られたノウハウはこれからも活かしながら、対面とオンライン、それぞれの強みを活かした講座を提供することで、地域課題と、現代の社会状況の課題に関連した学習機会を提供するため、引き続き5館でテーマを精査しつつ事業展開していく必要があります。

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、日常的にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

【めざす姿】

日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らす市民が増えている。

【施策の内容】

- ① スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
 - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
 - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
 - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- ② 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
 - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
 - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

個別目標1—(4)を達成するための主な取組

1 スポーツ教室等の開催（市長部局所管 担当:スポーツ課）

【関連する施策の内容】①スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。

- ・スポーツ教室については、東京2020オリンピック・パラリンピック大会のレガシーを引き継ぎ、オリパラ大会において関心度が高く安全性にも配慮した種目として、陸上競技やボッチャなどを選定し、実施しています。
- ・コロナ禍においても、可能な限りスポーツに触れる機会を保ちつづけられるよう、感染防止対策を取りながら魅力のある教室を展開しています。
- ・市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップスポーツ観戦デーとして、東京2020オリンピックで金メダルを獲得し、新たに生まれ変わった新生ソフトボールリーグ（JD. LEAGUE）を大和スタジアムに誘致しました。また、関東大学ラグビー対抗戦や、バレーボールのV. LEAGUEを大和スポーツセンターに招いたほか、女子サッカー観戦デーとして、大和シルフィードのホームゲームを開催するなど、身近な場所でトップレベルのプレーを観戦できる機会を提供しています。



トップスポーツ観戦デー

- ・観戦した市民からは「子どもがソフトボールをやっているの、プロの試合が無料で観戦出来るのはありがたい」や、「試合を近くで見て、アタックの音がすごかった！」など、喜びの声が届いています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 開催延べ教室数	教室	14	16	6	4	15		14
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	12	21	7	7	12		12

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	1,062	722	331	206	611		1,196
◇年1回以上直 接会場でスポー ツを観戦している 人の割合 ※1	%	34.3	—	—	14.9	—		37.3

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度(2021年度実施)が決められていることから2019～2020年度の実績はありません。

今後の課題

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックで注目度が高まった競技を実施種目に反映させていく等、今後もスポーツへの興味・関心を醸成できるような、魅力のある事業を継続することが求められます。
- ・総合型スポーツクラブや各種スポーツ団体と連携を図り、スポーツが続けられる環境を整える取り組みが必要です。
- ・コロナ禍を経て、多くのスポーツ推進事業が再開をしていますが、未だ参加者数が戻らない教室もあります。イベント開催情報を広く提供し、参加へとつなげる必要があります。

2 健康維持・増進に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②健康維持・増進につながる学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる機会を提供しました。
- ・つきみ野学習センターが企画し、生涯学習センターで開催された「甘酒、いろいろ。」という講座は、甘酒の健康効果を分かりやすく説明することで、学習者の健康への興味や関心に応えることができました。
- ・講座の開催目的は、健康維持および増進の機会を作るとともに、身近な食品の紹介を導入として、受講者の食文化や歴史に関する視野を広げることにあります。食の歴史や海外における甘酒の種類を紹介するだけでなく、実際に試飲するための時間も設けられ、甘酒に限らず、日本の伝統的食文化である発酵食品一般に関する知識を深める機会を、学習者に提供できました。
- ・受講後のアンケートでは「発酵食品や甘酒を日常の食生活に取り入れたいと思うか」という質問に対して、「積極的に取り入れたい」および「取り入れたい」という回答が全回答の八割以上を占め、受講後にも続く健康を配慮した習慣形成への意欲が見られました。
- ・このような取組の実施により、成果指標である、健康に関する講座等の延べ参加者数は、2019年度から

連続的に増加を見せ、最終目標値をも大幅に超える数値となりました。参加者数については、ポラリスにて全15回に亘り実施された「たのしく続けよう！ポラリス健康体操」の盛況も関係しております。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の開催事業数	事業	7	6	5	6	5		10

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	125	267	304	311	477		135

今後の課題

- ・コロナ禍を経て、健康維持・増進に関する講座の需要は高く、今後ますます増加していくものと予想されます。講座の形式については、デジタルディバイドの問題を考慮するなら、パソコンやタブレットを所有の有無を問わずに受講できる対面講座に利点がありますが、その一方で、オンライン形式であれば会場には足を運びづらい方々にも学習機会を提供することができます。各地区の学習センターにサテライト会場を設けるなど、オンラインと対面、双方の利点を活かし、引き続き、健康づくりのための機会を提供していきたいと考えます。

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度]

A

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統、文化を知ることは、郷土意識の醸成にも寄与します。

【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- ② 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
 - ・市民が伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
 - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形での学習機会も提供します。

個別目標1—(5)を達成するための主な取組

1 芸術文化に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。

- ・各学習センターにおいて、芸術・文化に関する活動のさらなる充実を図るため、映画鑑賞会、コンサート、音楽史や美術史に関する講座を始めとし、押し花、ちぎり絵、スケッチ、楽器演奏、演劇などを実践する講座および参加体験型のワークショップを開催しました。
- ・生涯学習センターで開催された「美術館をめぐる旅」では、西洋美術史を中心として、日本の仏教美術などにも触れながら、美術展覧会の予習あるいは復習に役立つような基礎知識を紹介しました。日頃は美術館に赴く習慣のない方々にも、芸術の営みを身近に感じてもらえるよう、美術作品をより面白く鑑賞するための見所や、美学的観点の一例を示すことに努めました。
- ・受講後のアンケートには「何気なく見過ごしてしまう一枚の絵にこんなにも色々なことが描かれていることに驚かされ、大変勉強になりました」、「一つ一つの絵の意味を分かり易く説明していただき勉強になった。この講義の後で展覧会を観に行くつもりです」、「今日のお話を頭に入れて美術館に行きたいです」といった声が多く見られました。これらの声から、講座による学びを通して、美術作品への関心のあり方に影響が及び、美術館が身近な空間となったことで、受講者の意識にポジティブな変容が生じたことが分かります。
- ・活動指標である、芸術・文化に関する講座等の開催事業数、および成果指標である芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数は、双方ともに最終目標値を大幅に超える数値となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	3	3	7	7	17		8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	263	250	254	464	1,574		288

今後の課題

- ・つきみ野、桜丘、渋谷学習センターはギャラリーを有していますが、十分に活用できていない状況にあるため、特別展の企画等の検討や、利用団体への周知を行うことにより、成果をさらに高めることができると考えます。

2 歴史企画展等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課）

【関連する施策の内容】②歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。

- ・つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園の歴史文化3施設において、同時入館人数制限（15名まで）や、対人距離の維持（おおむね2m）、講座をコーナー展示に変更するなどの新型コロナウイルス感染症対策を施しながら事業を実施しました。
- ・郷土資料や文化財の収集・保存・調査研究を継続的に実施し、成果を企画展示・講座・刊行物の発行という形で還元することで、市民に学習機会を提供しました。
- ・つる舞の里歴史資料館では、過去に起きた災害を知り、これからの災害対策に役立つことを目指して2022年9月に刊行した『大和市の災害史』の刊行記念事業として、企画展「大和市の災害の歴史」、講座「火山噴火と人々の暮らし～ポンペイ・富士山・三宅島の調査事例をもとに～」を開催しました。
- ・また、企画コーナー展示として、NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が話題になった時期でもあり、和田義盛をテーマとした展示「上和田・下和田・和田義盛―大和市の和田義盛伝説―」、大和市刊行の絵本『浅間神社と義経の財宝』の原画展「浅間神社と義経の財宝」を開催しました。
- ・つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園では、市域に伝わる年中行事の展示を実施しました。つる舞の里歴史資料館では、ひな人形・五月人形の展示において市民サークルの協力を得ており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。
- ・郷土民家園では、指定管理者主催の自主事業を実施しました。
- ・市民がさまざまな「歴史」を知り、一人ひとりの人生の豊かさや文化的な交流・発展につながられるよう、毎年11月1日を「歴史の日」とすることを決めました。2022年度は、シリウスの健康テラスで講座「大和市の歴史おもしろ話」を、601講習室で展示「大和市の歴史・文化財いろいろ展示」を開催しました。参加者からは「タイトル通り面白かった」「知らなかった大和市の歴史を知ることができた」などの声が寄せられました。



つる舞の里歴史資料館企画展

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館企画展の開催回数	回	3	3	4	6	5		3
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	65	65	26	45	57		65

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館で開催する企画展(3館合同含む)の来館者数	人	1,740	1,804	2,150	2,831	2,037		2,400
◎歴史文化施設の利用者数	人	54,443	47,760	37,516	50,280	42,607		61,200

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

今後の課題

- ・市民の学習機会の充実と共に、文化財等に関する様々な情報を発信するために、魅力的な事業の実施に努めていく必要があります。
- ・受け継がれた文化財を次世代に継承するために、適切な修理や保存を行う必要があります。

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

[達成度]

A

【施策目標1に対する総合評価】

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します	【総合評価】 B
------------------------------	----------

- ・市民の居場所の提供については、新型コロナウイルス感染症の感染対策を全施設で継続し、『安心して学習できる場』づくりに継続的に取り組んできたことが、前年度を上回る来館者数の実績に表れたと考えます。
- ・また、各種の講座や教室については、従来の対面によるものに加え、オンライン等を活用するなど、コロナ禍でもできることを主催者それぞれが考えて実践してきましたが、2022年度については、講座に対する受講者の満足度が最終目標値を下回る結果となり、開催形式だけではなく、講座の内容面でも今一度精査が必要となりました。
- ・新型コロナの影響は依然として続き、実績がコロナ前の水準まで回復したとは言えませんが、施策目標1に構成される2022年度の取組は、座席数や食事等に関する制限のもとで実施してきたことを考慮すると、概ね期待された結果が得られたと判断し、総合評価をBとしました。

【施策目標1の目標達成に向けた施策の展開方針】

【図書・学び交流課】

○健康都市大学

- ・「市民でつくる健康学部」については、引き続き、市民の学びが継続されるよう魅力的な講座の開催に努めるとともに、より多くの方が学びの場に参加できる環境づくりに取り組みます。

○生涯学習センター・図書館

- ・コロナ禍から日常への回帰が徐々に進行するなかで予想される利用者数の増加と、状況に応じた感染対策を両立させつつ、施設の管理運営に努めます。また、引き続き、各地区にサテライト会場を設ける講座など、対面とオンライン、それぞれの利点を活かした講座実施を検討していきます。
- ・ポストコロナの時代において、市民の継続的な学習機会が確保できるように、デジタルディバイドの解消を目的とした取組を進めながら、従来の対面による講座にとらわれない、オンラインを始めとする学習機会の提供方法を指定管理者とともに検討します。

【こども・青少年課】

- ・ユースクラブでは、参加者が仲間とともに活動内容の企画・立案、そして、実践・反省・改善までの過程を行い、協調性、社会性等を身に着けられるよう、体験機会の確保に努めていきます。
- ・こども体験事業については、東日本大震災被災地での宿泊研修、事前事後研修や活動発表の実施、また、これらの活動を青年実行委員によって企画、運営するなど、青少年の体験機会の確保に努めていきます。

【スポーツ課】

- ・スポーツを「みる」ことを「する」ことへの動機づけとし、健康の保持増進へとつなぐ取組を継続します。
- ・感染対策を行いながら、スポーツ活動が再開しましたが、コロナ禍前に比べ、スポーツ教室等の参加者は現在も減っている状況にあります。スポーツで身体を動かすことは心身の健全な発育のために重要なため、今後もより多くの市民にスポーツがしやすい環境を提供できるよう努めます。

【文化振興課】

- ・新たな企画の立案、情報発信方法の工夫、多彩な事業の実施による施設の魅力向上等に取り組み、市民の学習機会の充実に努めていきます。

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

仲間や友人などと共に学ぶことによって、人と人とのつながりや交流が生まれます。学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、市民の学習活動が活発になる。

【施策の内容】

- ① 学習に関する情報を効果的に提供します。
 - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
 - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
 - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
 - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
- ② 学習相談による充実した支援を行います。
 - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ的確な学習相談による支援を行います。
 - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

個別目標2-(1)を達成するための主な取組

1 レファレンスサービスの提供（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習に関する情報を効果的に提供します。

- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結します。
- ・成果指標である、市民一人当たりの図書の貸出冊数は最終目標値に到達していませんが、つきみ野学習センター図書室休館の影響と考えられ、次年度は最終目標値に到達すると見込んでいます。
- ・また、リクエストについては、2022年度は315、324件を受け付け、市民の学びたいという気持ちに応えました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の蔵書数	冊	586,553	617,823	626,380	638,609	654,532		686,000
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	2	2	2	2		8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○市民一人当たりの図書の貸出冊数	冊	5.39	5.83	4.42	5.85	5.38		5.85
○レファレンス受付件数	件	295	456	361	405	510		302

今後の課題

- ・図書館におけるレファレンスサービスの利用数は図書館機能を計る重要な指標のひとつであり、最終目標値に到達した後も、利用者数の増加に努める必要があるため、レファレンスサービスの広報を行う媒体を増やすことを検討しています。

2 学習情報の提供・学習相談の実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学習相談による充実した支援を行います。

- ・学習情報をコンパクトにまとめた「健康都市やまとMANABI支援ガイド」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供しました。
- ・また、市民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくために、窓口・電話での学習相談を適宜行いました。学習相談員は微増となりましたが、相談件数は前年度より減少し、最終目標値を僅かに下回る水準となりました。



- ・各種制限が徐々に緩和されていく各学習センターの利用方法について、HPのほか、電話や窓口において、学習団体へ細かく説明を行い、継続的な活動に向けた支援を行いました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習相談員数	人	※1 32	36	34	28	29		33

※1 計画策定時（2017年）の学習相談員の数は、生涯学習センター（指定管理者）の職員と地区館（市職員）を合算。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習に関する相談件数	件	3,382	4,454	6,236	4,991	3,937		3,962

今後の課題

- ・インターネットの普及により、個人で多くの情報を得ることが容易になっていますが、ペーパーメディアで日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層もいるため、ターゲットに応じた効果的な情報提供の手法を検討していく必要があります。
- ・今後、コロナ禍以前の生活様式に戻りつつあるなか、学習センターの利用方法につき、様々な問い合わせが寄せられると予想されます。適切な応答、案内により、利用者の皆様にとって過ごしやすい学習環境を提供できるよう、指定管理者との情報共有等に努めます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度]

B

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・個人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・生涯学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

【めざす姿】

学びを支える担い手づくりが進められ、市民同士で教え、学び合うシステムの構築が進んでいる。

【施策の内容】

- ① 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
 - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
 - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
 - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。

個別目標2—(2)を達成するための主な取組

1 団体利用の登録説明会の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「団体利用の登録説明会」は、これまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことの無い市民や団体を対象に、施設見学と利用登録に関する説明会です。
- ・2022年度については、3年ぶりに登録説明会を実施することができ、徐々にコロナ禍以前の日常に戻りつつありますが、依然としてコロナ禍の影響は尾を引いており、活動者の高齢化も相俟って団体登録数には減少が見られました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○団体利用の登録説明会の開催回数	回	-	1	0	0	1		5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体の登録数	団体	1,761	1,991	1,638	1,732	1,487		1,849

今後の課題

- ・新規団体の設立を促すため、単に個人学習を目的としたものだけでなく、講座に参加した他の学習者とのつながりをつくり、グループ活動を生み出すような学習プログラムの立案を行っていく必要があります。
- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、引き続き、新規会員獲得のための支援を行っていく必要があります。
- ・学生が高校卒業後にスムーズに団体を形成できるような、学生向けの講座やサービスなどを考案し、地域の若年層の利用を促したいと考えます。

2 読み聞かせボランティア養成講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「こども読書よむ読むプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な人材であることから、ボランティアの育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。
- ・読み聞かせボランティアを養成する講座については、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者まで幅広く参加できる体制を整えていました。2022年度は年間11回の開催、167人の参加がありました。
- ・また、ボランティアの活躍の場の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年38回実施しました。



読み聞かせボランティア養成講座

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」の開催回数	回	11	9	8	8	11	11	

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	127	175	124	113	167	300	

今後の課題

- ・ブックスタート会場における読み聞かせの中止や、学校における読み聞かせ活動の自粛など、読み聞かせボランティアの活躍の場が減っていたことから、ボランティアのモチベーションの維持向上に繋がる方策を検討していくことが求められます。

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度] B

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていく必要があります。

【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

【施策の内容】

- ① 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
 - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- ② 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
 - ・学習活動や学習成果の発表などにより、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

個別目標2—(3)を達成するための主な取組

1 学習センターまつりの開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・2022年度の学習センターまつりは、5館のうち、4館（大規模改修中であったつきみ野学習センターを除く）において実施しました。
- ・各学習センターにおいて、利用団体の活動成果の発表と作品展示の場を設けるとともに、来場者が参加できるイベントや体験型の展示などを実施しました。団体と来場者の方々の貴重な交流の場となり、日頃の学習活動の成果を地域に還元することができました。
- ・詩吟とハーモニカ、あるいはハーモニカとウクレレなどの合同演奏が行われ、分野を異にする団体のコラボレーションの機会としても機能し、参加団体からは「参加したサークル同士の交流ができました。そのなかで、似たジャンルのサークルが集まり、合同でコンサートを行いたい」などといった、今後の活性化に向けた提案も寄せられました。
- ・成果指標である学習センターまつり参加団体数については、前年度比で減少が見られるものの、今後は改修工事の完了したつきみ野学習センター分の増加が見込まれるため、増加が予想されます。しかしながら、コロナ禍以前の実績、さらには最終目標値に達するためには、より多くの団体に声掛けを行い、運営方法を精査、吟味していく必要があります。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センターまつりの回数	回	5	5	3	5	4	5	

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センター まつり参加団体 数	団体	170	159	80	112	95		180

今後の課題

- ・各学習センター活動団体による学習活動や学習成果の発表の場として「学習センターまつり」は、継続的に実施されていますが、同じ学習センター内での交流に留まる傾向があります。
- ・今後については、例えば、つきみ野学習センターで活動する団体を、渋谷学習センターまつりへと招待して参加を促すなど、異なる地域を活動拠点とする団体間の交流を活性化させ、新たな繋がりを生み出すための取り組みを充実させる必要があります。学習センターまつりの参加団体からは「似たジャンルのサークルが集まり、合同コンサートを行いたい」という要望があったため、団体が日頃活動をしている館の枠を超え、いっそう多くのコラボレーションを実現できる機会を創出できたらと考えます。

2 交流機会創出のための支援（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・市民の交流機会を創出するために、各学習団体が、まなびの輪支援事業で開催する市民対象の体験講座や自主事業の周知・広報活動の支援を行いました。
- ・まなびの輪支援事業では、各団体の取り組みに参加してもらっただけでなく、団体の取り組みに興味を持ってもらい、新規会員を取り込むことも目的の1つであるため、各団体で実施回数や内容を工夫しながら、地域住民同士の交流や、地域活動の推進が行われています。
- ・学習団体の活動の再開および活発化により、活動指標にある学習団体による講座等の広報回数、成果指標にある学習団体の活動支援件数は増加しているものの、コロナ前の水準まで戻るには長い期間が必要になると思われます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等の広報回数	回	-	948	223	338	439		800
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	3	4	5	4		5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等参加者数	人	3,218	2,898	728	972	918		3,550
○学習団体の活動支援件数	件	99	62	27	24	31		104

今後の課題

- ・コロナ禍から日常に回帰しつつあるとは言え、成果を発表する活気や機会を取り戻すための支援を行い、学習団体と地域を繋げ直す必要があります。団体活動のモチベーションを維持しながら、コロナ禍によって薄れてしまった地域との結びつきを、今一度高めることが課題となっています。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度]

C

[施策目標2に対する総合評価]

施策目標 2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

[総合評価]

B

- ・学習情報の提供や学習相談については、団体の活動内容をきめ細かく説明するなど、学習を通じた人と人との交流の輪を広げるきっかけになったと考えます。
- ・学習団体による主体的な講座等の企画運営、学習成果の地域還元については、思うように進んでいない部分があるものの、コロナ禍においても実施できた講座、イベントは、施策目標2が目指す地域における交流や連帯感の醸成に一定の効果があつたと判断し、施策目標2の総合評価としてはBとしました。

[施策目標2の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

○学習センター

- ・今後も学習センターまつりが継続的に行われ、参加団体数が減少せず、団体相互の交流も活性化するよう、実行委員会のモチベーションの維持と向上を目指してフォローを行います。
- ・学習団体が行う新規会員獲得のための広報周知活動の支援を継続して実施していきます。

○図書館

- ・ボランティア養成講座を引き続き行い、読み聞かせボランティアの育成に力を注ぐとともに、ボランティア団体同士の情報交換などを通じて、ボランティアの活躍の場を広げていきます。

施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのためには、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

個別目標3-1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

【施策の内容】

- ① 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
 - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
 - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

個別目標3-1)を達成するための主な取組

1 学習環境の向上に関する取組 (市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。

- ・つきみ野学習センターは建物及び各設備の老朽化が進んでいたことから、今後も学習施設として安全かつ快適にご利用いただけるように、2021年12月末から2023年4月9日まで休館し、施設の改修工事を行いました。
- ・大規模改修工事では、各部屋のオンライン環境整備として、電源やLANの追加、オーディオ機器の入れ替えなど、学習のための機能を充実させることができました。
- ・各学習センターで実施した利用者懇談会の中では、社会教育関係団体を始めとする利用団体から利用方法について出された意見を踏まえ、施設設備の改修状況や、事故及びトラブル対策について報告するなど、適宜サービスの見直しを行い、学習環境の向上に努めました。



つきみ野学習センター
(改修工事前)



つきみ野学習センター
(改修工事後)

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○利用者懇談会の実施回数	回	5	※1 2	4	5	4		10

※1 2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習センター3館で各1回中止となった。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる利用者の満足度	%	—	81	83	84	86		80

今後の課題

- ・2019年度以降、利用者満足度は着実に上昇し続けております。満足度をさらに向上させるため、今後も利用者の様々なニーズを聴き取り、応えていく必要があります。コロナ禍から日常への回帰が行われるなかでも、引き続き、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図りたいと考えます。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度]

B

個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の専門性を活用することも、有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、有識者の意見等を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

【めざす姿】

行政の知識や経験が市民の学習活動に活かされているとともに、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

【施策の内容】

- ① 行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。
 - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
 - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- ② 学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。
 - ・学識経験者が参画する学びに関する各種会議を開催し、生涯学習推進に向けた方策の検討等を行います。
 - ・各種会議の審議等を通じて、行政の施策等を適正かつ効率的に実施します。

個別目標3—(2)を達成するための主な取組

1 「どこでも講座」の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を図るため、研修会や学習の場に専門的な知識を持つ市役所各課の職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しました。
- ・成果指標のどこでも講座の延べ参加者数は上昇を続けており、前年度との比較からは、着実にコロナ禍前の水準に戻りつつあると言えます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の開催事業数	事業	88	88	88	91	92	88	

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の延べ参加者数	人	452	310	58	102	254	630	

今後の課題

- ・どこでも講座のメニューを充実させることも魅力的な講座の運営には必要ですが、講義内容に関心を持ってもらうための取り組みとともに、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（チラシ作成やHP）以外の方法を検討していく必要があります。

2 審議会等の運営（市長部局所管 担当:スポーツ課）（教育委員会所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。

- ・社会教育委員会議では、平成27年に行われた社会教育委員と教育委員との情報交換会をきっかけに、家庭教育支援講座の提案がなされ、社会教育主事の企画を元に社会教育委員会議で検討し、地域に出るアウトリーチ型の家庭教育支援講座を実施してきました。
- ・2022年度は大和市コミュニティセンター中央林間会館を会場に、家庭教育における親子の関わり合いについての講座を開催しました。講義の後は、子どもの自然体験に親が関わることの大切さを学ぶため、雨天により森への移動をやめ、施設外を一周する自然体験学習を行いました。
- ・受講者には好評いただき、高い満足度を得ることができました。「改めて家庭教育の大切さが分かりました」、「同じ学年の子どもをお持ちの方の話を聞けてよかったです」といった感想からは、自らの学びを家庭に持ち帰り実践するという、家庭教育支援講座の意図に適った内容となったほか、参加した家庭間の有益な情報交換の場となりました。
- ・社会教育委員会議で実施してきた家庭教育支援講座は、研究調査の一環として実施しているものであり、今後の家庭教育のあり方について協議を行いました。
- ・スポーツ推進審議会では、主に指定管理者の評価についてや、スポーツ施設設置条例の一部改正に関する審議を行いました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇審議会等の開催回数(スポーツ推進審議会)	回	3	2	3	3	3		5
○審議会等の開催回数(社会教育委員会議)	回	4	※1 4	4	4	※2 5		4

※1 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。また、第4回定例会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

※2 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ推進審議会審議案件数	件	6	2	8	6	7		6
○社会教育委員会議審議案件数	件	8	6	5	6	5		8

担当:○図書・学び交流課、◇スポーツ課

今後の課題

- ・社会教育委員会議では、アウトリーチ型の家庭教育支援講座を2018年から自ら主宰して実施してきましたが、今後はこうした取り組みを地域が主体的に担い、持続可能な地域ぐるみの支援体制づくりを目指し、取り組んでいく必要があります。

個別目標3—(2)支援・推進体制の充実

[達成度]

B

個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

- ・市民の学びの裾野を広げていくなかでは、学びに関わりのある様々な組織や個人の協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の学習活動に貢献している。

【施策の内容】

- ① 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
 - ・民間教育機関、市民の学習団体や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
- ② 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
 - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
 - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

個別目標3—(3)を達成するための主な取組

1 地域ボランティア・団体との連携（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

（教育委員会所管 担当：こども・青少年課）

- 【関連する施策の内容】
- ①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ②地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。

- ・学習センターでは、市民のさまざまな学習ニーズに応じるために、パソコン・語学・手工芸など、趣味的なものから専門的なものまで、各分野の知識・技能・経験をお持ちの方を生涯学習ボランティア講師として登録し、学習者の希望に合った講師を紹介する、やまと生涯学習ねっとわあくを運用しています。
- ・やまと生涯学習ねっとわあく制度を広く知っていただくため、ボランティア講師を活用した「小学生夏休み体験講座」を行いました。
- ・成果指標である、ボランティア講師の利用件数については、前年度と比較するとやや減少しており、最終目標値を大きく下回っています。これは、徐々に元の日常生活、行動様式に戻りつつあるとは言え、新型コロナウイルス感染症の影響により、学習者が、講座の受講を控える傾向が依然として続いていることが理由と思われます。また、講師の高齢化に伴い、二年に一度の登録更新を取りやめる方がいることから、講師登録数は減少しています。
- ・青少年指導員は、各専門部会を開催するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、可能な範囲で地域の実情に合わせた活動（工作やどんと焼き等）を展開し、青少年健全育成に取り組みました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師登録数	人	171	159	126	131	115		153
●青少年指導員の委嘱人数 ※1	人	106	107	96	94	98		120

※1 地方公務員法及び地方自治法の改正により、特別職非常勤職員であった青少年指導員が、令和2年度からは教育行政協力員とされたため、現在は委嘱ではなく、依頼を行っています。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師利用件数	件	22	6	1	3	3		25
●青少年指導員の活動延べ日数	日	430	430	86	144	274		450

担当:○図書・学び交流課、●こども・青少年課

今後の課題

- ・ 今後は、やまと生涯学習ねっとわあくにおいてもオンライン環境を活用した、より利用しやすい相互の教え合い、学び合いの場の提供を検討していく必要があります。

2 学校開放事業の実施 (教育委員会所管 担当:図書・学び交流課・スポーツ課)

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。

- ・ 市民の生涯学習の場として市内の小・中学校9校を、スポーツ活動の場として市内すべての小・中学校である28校を開放しています。
- ・ 学校の校庭や体育館だけでなく、音楽室・調理室・技術室などの特別教室も開放しており、様々な団体に利用いただいています。
- ・ 2022年度は、前年度とは異なり、新型コロナウイルス感染症対策のため開放を中止した期間はなく、特別教室開放、スポーツ開放ともに利用者数は大幅に増加しました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放施設数	施設	9	9	9	9	9		9
◇学校施設のスポーツ開放利用団体数	団体	456	430	414	399	405		476

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放 利用者数 ※1	人	16,094	16,038	2,286	4,730	7,967		17,766
◇学校施設のスポーツ開放利用 件数 ※2	件	14,350	13,279	7,205	9,625	13,625		15,082

担当: ○図書・学び交流課、◇スポーツ課

※1 特別教室開放については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度：4月～8月、1月9日～3月21日

2021年度：4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

※2 スポーツ開放については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度：3月2日～7月14日、1月9日～3月21日

2021年度：4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

今後の課題

- ・特別教室開放の存在を知らないために利用していない方もいると思われるため、ニーズを汲み取りつつ、効果的なPR活動を検討していく必要があります。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度]

C

【施策目標3に対する総合評価】

施策目標 3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります	【総合評価】 B
-----------------------------	----------

- ・利用者懇談会での意見等をもとに日々見直しを行い、快適な学習環境となるよう努めており、2019年度以降、来館者アンケートにおける利用者満足度は着実に上昇し続けています。今後も利用者の様々なニーズを聴き取り、応えていく必要があります。コロナ禍から日常への回帰が行われるなかでも、引き続き、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図りたいと考えます。
- ・どこでも講座、生涯学習ねっとわあく、学校開放事業は、地域のボランティアや他の団体と連携、協力して実施しているものであり、これらについては適切に運用が図られていると考えますが、その一方で利用率については、新型コロナウイルスの影響を除いたとしても、成果を高める余地はあったと考え、施策目標3の総合評価としてはBと判断しました。

【施策目標3の目標達成に向けた施策の展開方針】

【図書・学び交流課】

- ・引き続き、利用者の声を活かしながら、学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
- ・利用者懇談会での意見や来館者アンケートなどをもとに改善した内容を、館内に取組み状況として掲示します。
- ・特別教室開放事業は、学習センターに比べ、利用率や開放校の認知度は、まだ少ないものと捉えています。近隣の学校を生涯学習活動に活用できるよう、学習センター利用団体に対するPRの方法を検討します。

【スポーツ課】

- ・学校開放事業実施委員会と連携を図りながら、学校施設を利用してスポーツ及びレクリエーション活動の場を提供することで、地域の利用者のスポーツ活動の促進およびそれによる健康増進を行っていきます。

【こども・青少年課】

- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関が協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていきけるよう支援していきます。